

## 学長の業績評価結果の公表

令和3年（2021年）10月20日  
学長選考会議 議長 本松 賢

学長選考会議において、半藤学長の業績評価を下記のとおり行いましたので、熊本県立大学学長業績評価に係る実施要領第4に基づき、その結果を公表します。

### 記

- 1 評価期間  
平成31年4月から令和3年3月まで
- 2 評価方法  
書面審査並びに学長による業績説明及びヒアリング
- 3 評価結果  
総合評価：優れた業績である

#### <参考：学長の業績評価に係る経緯>

- 第1回会議（令和3年（2021年）6月23日開催）  
学長の業績評価に係るスケジュールを審議
- 第2回会議（令和3年（2021年）8月2日開催）  
書面審査並びに学長による業績説明及びヒアリング
- 第3回会議（令和3年（2021年）9月27日開催）  
学長業績評価結果書（素案）を審議
- 第4回会議（令和3年（2021年）10月20日開催）  
学長業績評価結果書（最終案）を審議、確定

## 学長業績評価結果書

（評価期間：平成31年4月～令和3年3月）

|      |          |
|------|----------|
| 総合評価 | 優れた業績である |
|------|----------|

### 評価の理由等

#### 教育・研究

もやいすとグローバル育成プログラムや高度グローバル人材育成プログラムの構築・策定を行った。また、コロナ禍での教育活動の維持・強化のため、全学的な遠隔授業等の導入、対面の実験・実習での感染防止対策、大学院生・留学生に対する独自の授業料減免措置など、的確な措置を講じた。

また、科学研究費補助金への応募率が7年連続で100%を達成していることや共通教育センターの開設等が評価できる。

その他様々な取組を通し、自分で考え自分で課題解決を図ろうとする学生の育成ができていていると感じられる。

#### 国際化

もやいすとグローバル育成プログラムの導入に伴い、高水準の授業を実施した。

また、アフリカにおける日本留学海外拠点推進事業における積極的な参画への指示や水銀留学生への活動サポートの充実などは高く評価できる。

さらに、レベルの高い国際シンポジウムの開催は、学生に世界に目を開き、好奇心を刺激される素晴らしい機会となった。

国際教育交流センターを開設するとともに、アフターコロナを視野に留学生対策を講じた点、新入生対象としたもやいすとグローバル育成プログラム内容の整備等の取組は、大いに評価できる。

その他、国際化に資する人事にリーダーシップを発揮した。

今後は、コロナ禍において、国際交流校との連携強化、短期留学等のあり方検討が望まれる。

#### 地域貢献

学生GP、地域おこしスタートアップ事業等により地域の課題を解決するための多様なプログラムを充実させた。

また、県南豪雨災害からの復興に寄与する町づくりや政策提言、教育補完等の活動、「緑の流域治水研究室」の新設と担当教員の招聘を臨機に対応するとともに、琢磨川流域圏の文化、歴史、環境をテーマにしたバーチャルキャンパスの実施を決定した。

県教育委員会や熊本大学とのMOU締結により、将来の地域貢献の基盤を作った。

また、熊本市・熊本大学・NTT ドコモとの連携協定による学校教育の ICT 化事業等の連携協力活動、Web を利用した出張講義や高校生向けオープンキャンパスの実施等の取組がなされた。

その他、大学コンソーシアム熊本会長、(公財) 大学基準協会評議員、県立高校のあり方検討会会長としての活動など、地域・公益に関する諸活動に精励された。

今後は、企業等との産学連携活動について、大学としてさらに推進されることが期待される。

#### 大学運営

役員会議の事実上の制度化と執行部の集団的意思決定プロセス形成に貢献した。

また、コロナ禍にあって、国・県・市の指針に沿った授業開始の延期、遠隔授業の展開、密閉・密集・密接の 3 密を避けた少人数授業、テレワークやネット会議の推進、IT 授業支援のタブレット貸出しなど、教職員の安心・安全に配慮した大学運営を行った。

今後は、大学院の収容定員充足率アップに向けた引き続きの取組が望まれる。